

国際石炭情勢の展望

<報告要旨>

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
化石エネルギー・国際協力ユニット 石炭グループマネージャー
研究理事 佐川 篤男

2019-2020 年の石炭価格の展望

1. アジア市場を代表する一般炭スポット価格（豪州ニューキャッスル港出し FOB 価格）は、2018 年 7 月下旬の 120 ドルトン（以下同様）をピークに下落傾向で推移している。2019 年初めに 100 ドル前後で推移した後再び下落し、夏期の需要期に向けた調達時期にもかかわらず一般炭スポット価格は、6 月末には 70 ドルを下回ったが、足元 70 ドル半ばまで戻している。アジア市場と並ぶ市場である欧州市場の一般炭スポット価格（アムステルダム、ロッテルダム、アントワープ港渡し価格）は、ガススポット価格の急落により 6 月初めに 50 ドルトンまで下落し、横ばいで推移した後、7 月に入り反転している。この急落がアジア市場の一般炭スポット価格を押し下げた要因とも考えられる。
2. アジア市場の一般炭スポット価格は下げ止まり、秋口まで 70 ドル台前半で推移した後、冬期の需要期に向けて上昇する。2020 年に向けては、季節要因、中国の輸入増減の影響を受けつつ、一般炭スポット価格はインド、アセアンでの輸入増を受けて上昇基調で推移し、80 ドルまで上昇する。
3. 原料炭スポット価格（豪州高品位強粘結炭 FOB 価格）は、インドと中国での輸入増と供給側での要因（炭鉱事故、滞船）により上昇し 2018 年 10 月以降 220 ドルで推移した。2019 年に入り需要が落ち着き、原料炭価格は 1 月に 190 ドルまで下がった後、200 ドル前後で推移していたが、足元 180 近くまで下落している。
4. 2020 年に向けての原料炭スポット価格は、高価格のなか休山中炭鉱の再開や既存炭鉱の拡張、新規ソースの拡大等により供給力が高まりつつあり、下落基調で推移し、170 ドルまで下落する。

需要動向

5. 2018 年の世界の石炭需要は、欧州、北米で減少したものの、アジアで 7,050 万石油換算トン (toe) 増加し、世界全体では 5,370 万 toe 増加した。特に、

- インドと中国が一般炭と原料炭、アセアンが一般炭の伸びを牽引した。
6. インドでは石炭需要が拡大するなか、政策的に国内生産の増強を図っている。この結果、石炭輸入量は 2015 年をピークに一時的に減少したが、2018 年の輸入量は 2,930 万トン（一般炭 2,260 万トン、原料炭 670 万トン）増加した。2019 年以降も、一般炭輸入は、国内炭が高灰分であることや海外炭焼き火力が運開することから増加する。原料炭輸入は、銑鉄生産の増加に伴い拡大する。
 7. アセアンでは新規石炭火力の運開等により、石炭輸入量は 2016 年以降毎年 1,000 万トン以上増加しており、今後も建設中の石炭火力発電所の運開に伴い増加する。
 8. 中国の石炭輸入量は 2015 年に 2.04 億トンまで減少したが、それ以後反転し 2018 年は 2.81 億トンに達した。中国政府は発電効率の向上やガスへの転換等により石炭消費を抑制し、石炭需給をバランスよくコントロールする方針である。しかし 2017 年以降、消費、生産、輸入とも増加傾向で推移しており、2019 年においても、いずれも対前年で増加している。
 9. 欧州では、「脱石炭」から石炭火力発電所の閉鎖が進められ、また新規投資も難しい状況にある。石炭消費も 2013 年をピークに減少しており、併せて域内生産と輸入も減少している。

供給動向

10. 米国の石炭輸出は、国際石炭価格の高止まりを受け、2017 年に 3,300 万トン、2018 年には 1,700 万トン増加した。過去からスイングサプライヤーといわれるが、国際価格次第で輸出拡大の余力がある。一般炭価格の下落傾向の中、2019 年の輸出量は対前年比で減少している。
11. 豪州の石炭輸出は、市況の停滞と他輸出国からの輸出拡大によって、ここ数年輸出量はほぼ横ばいで推移した。2019 年 1-4 月の輸出量は対前年同期比で 250 万トン増加している。2016 年年央以降の市況回復により休止中炭鉱の再稼働や既存炭鉱の拡張が進められ、2020 年に向けては需要増に対応した供給能力の確保が期待される。ただし、中長期的には住民反対や脱石炭の動きの影響から新規の炭鉱開発は難しくなっており、昨今の一般炭価格の低迷がさらに投資判断を難しくしている。
12. インドネシアは、石炭資源の保護と有効活用から生産調整を打ち出していたが、市況の回復から生産、輸出が増加傾向にある。報道によれば 2018 年の生産量は 5.57 億トン（前年度比 20.8%増）と報じられている。
13. その他供給国では、ロシア、コロンビアで一般炭、カナダ、モザンビーク、ロシアで原料炭の輸出拡大が見込まれる。

以上